

固体電解質の微粒化で全固体電池特性が変わる

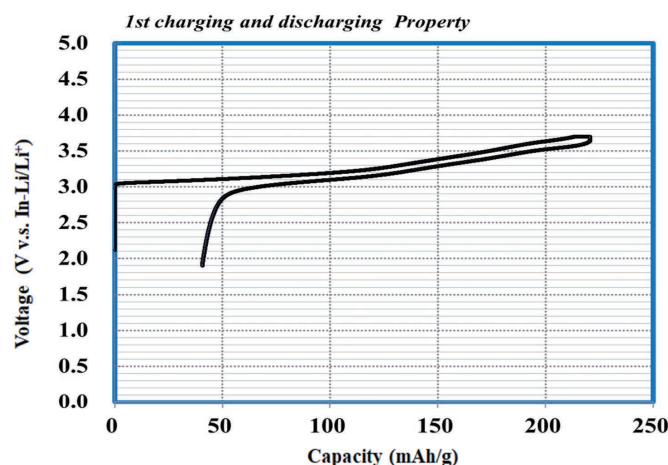
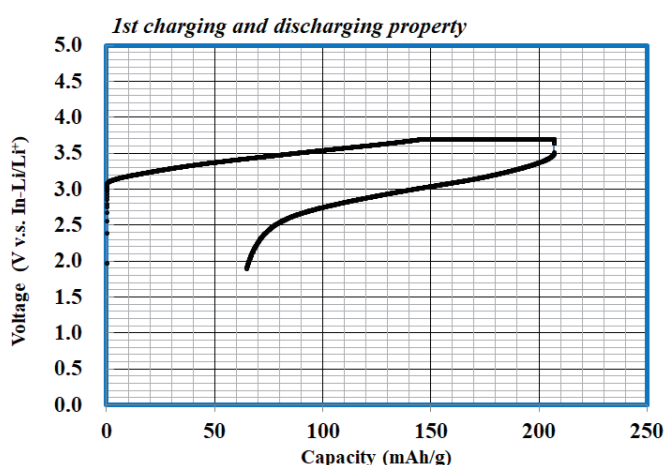
ドライ環境下で貴社材料の分散が可能です

実用圧力での全固体電池開発が進むほど、電極材料と固体電解質の充填性・接触性を考慮していく必要があります

電極材料と固体電解質の粒径差による充放電特性例

電極材料と固体電解質の粒径差を変化させた場合の充放電特性を下図に示します
この特性の違いは、如何に電極材料と固体電解質の粒径を正しく選定されるか（イオン伝導パス形成）が重要であることを示します

【正極活物質4 μ m + 固体電解質（LPSCI）5 μ m】 【正極活物質4 μ m + 固体電解質（LPSCI）1 μ m】



KRIの全固体電池への材料開発の提案

実用圧力で動作可能な全固体電池を考える場合、如何に小さく、分散しやすい固体電解質であるかが重要であると考えます

K R I では、微粒化・分散といった技術を有しており、ドライルーム内での微粒化も可能なことから、固体電解質の微粒化・分散化をご提案いたします

【ご提案内容】

- ・ 固体電解質の微粒化
- ・ 微粒化固体電解質のイオン伝導度評価
- ・ 微粒化固体電解質を用いた電極作製・評価
- ・ 微粒化固体電解質を用いたSE膜作製・評価

など

【ビーズミル】



【ドライルーム】



「固体電解質の微粒化・微粒化固体電解質を用いた開発」についてご提案いたします